

報 告

E-learning システム Campusmate／CourseNavig

— 概要と本学での利用について —

An Outline of CourseNavig System and
the Situation That Are Used赤 嶺 多恵子*
AKAMINE, Taeko

はじめに

インターネットの普及で学習環境が大きく変容する昨今、本学では2005年9月にE-learning システム「Campusmate／CourseNavig」を導入しました。

このシステムは学内外からブラウザを利用してアクセスでき、多様な学習や簡易な教材の作成が可能です。

以下に CourseNavig の概要並びに利用状況についてレポートします。

1. 【Campusmate／CourseNavig】の概要

従来の E-learning システムは、「オンデマンド型」教育と呼ばれる自己学習を中心としたものでした。自己学習コンテンツの管理単位である「講座」は、大学の対面授業における「講義」とは必ずしも一致しないため、そのままでは対面授業に適用しにくいという特異性がありました。

「Campusmate／CourseNavig」は、大学で行われている授業スタイルを変えることなく、あくまで授業を支援するシステムとして緩やかに導入を進めることが可能です。システムに授業を合わせるのではなく、授業をサポートするシステムとして活用できます。

授業を効率よく補完し、その効果を高めることを目的としているため、システムにあわせて教材を作成する必要はなく、従来の授業で活用した PowerPoint のスライド教材、Word、Excel 等の資料教材は、そのまま登録することが可能です。この他にもテスト教材や学習教材、動画コンテンツを使用できると同時に、本格的な E-learning システムのニーズにも十分対応できます。

* 城西大学情報科学研究センター

InternetNavigware 向けコースウェアの利用を含め、多様な学習環境を構築することが可能です。

2. 【Campusmate／CourseNavig】の機能

Campusmate／CourseNavig（以下、CourseNavig）は、コンピュータに不慣れな方でも操作できるよう、簡単なインターフェースとなっています。

代表的な機能は、下記の通りです。

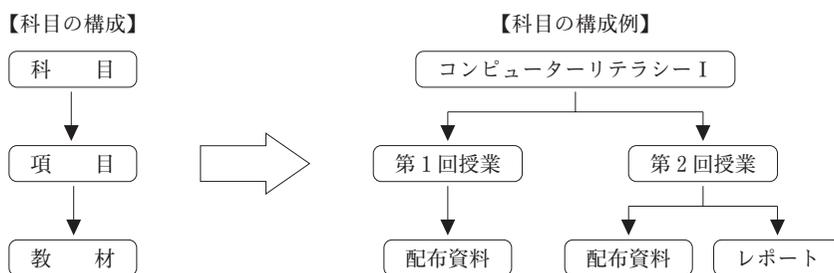
- 授業前の予習や資料配布
- 授業中の資料提示・修行終了後の理解度テスト
- レポート提出評価
- アンケートによる授業評価
- 掲示板によるコミュニケーション
- 映像教材による学習

2-1 科目の概念

CourseNavig が提供する科目の概念は、「科目」→「項目」→「教材」の3つの階層から成り立っています。

CourseNavig での「科目」と「項目」の定義は以下のようになります。

1. 科目＝学生が履修登録している講義名。半期もしくは通年で実施されるもの
2. 項目＝1回90分等の単位で実施されるもの
3. 教材＝項目の中で使用する学習に必要な資料・課題



「1. 科目」には、担当教員や科目の曜日と時限・履修学生が既に登録されています。Course Navig へログインすることで、学生であれば履修している科目・教員であれば担当している科目や学生を確認することができます。

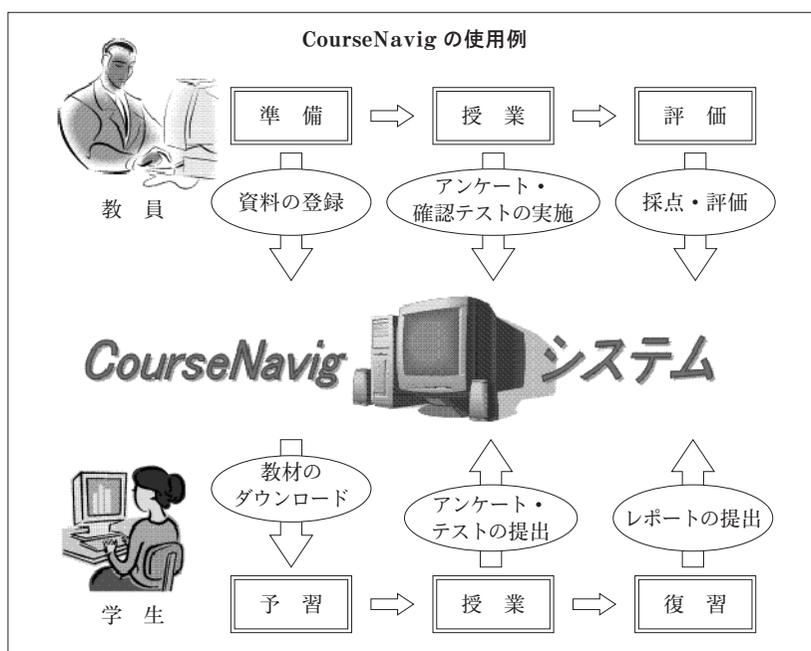
「2. 項目」には、実施する授業についての概要を教員が設定します。この項目の中に、「3. 教材」を登録することで履修学生は学習が可能になります。

【教材タイプの種類】

配布資料	文書ファイル、表計算シートなど、学生に配布する資料としての教材 (教材は Word, Excel, PowerPoint 等全てのファイルに対応可)
レポート	学生が提出するレポート課題としての教材 (提出ファイルは Word, Excel, PowerPoint 等全てに対応可)
テスト	学生が実施するテスト問題としての教材
学習教材	オンライン教科書 教材を1ページごとに登録することにより、学生の学習進捗度合いを確認可能
アンケート	学生が実施するアンケートとしての教材
映像教材	映像教材配信システム Ub! Point で作成されたコンテンツ教材

2-2 CourseNavig の運営イメージ

CourseNavig を利用した授業の運営イメージを表します。



① [教員/授業の準備フェーズ]

授業前に学生へ知識として与えたい資料を登録しておきます。これを行うことで授業の進行がスムーズかつ効率的に運ばれます。

他に、授業で使用する資料を事前に CourseNavig に登録し持参させることで、教員が行っていた資料の印刷や授業中の配布等の手間が省かれます。

[学生/予習フェーズ]

授業前に登録された資料をダウンロードし学習することができます。

② 〔教員・学生／授業フェーズ〕

パソコンの利用できる環境で授業を行うならば、授業中に確認テストやアンケートを実施することができます。アンケートは、CourseNavig が即座に集計しますので簡易に情報を得ることが可能です。

③ 〔教員・学生／復習フェーズ〕

教員が登録したレポート課題について、学生は CourseNavig を介していつでも提出することが可能です。インターネットが利用できる環境であれば、自宅からでも学習や提出ができます。

同様に、教員は学生から提出されたレポートを CourseNavig で確認し、コメントや評価を行い返却することが可能です。

以上は、CourseNavig を利用する一例です。授業のスケジュールによって予習や復習のフェーズで各教材をタイプごとに利用することができ、多様なサイクルが繰り返されていくことにより教材が蓄積されます。

CourseNavig では、教材として作成した資料や課題をファイルサーバー等に保管する必要はありません。講義や授業情報と関連付けて課題や掲示資料を保管でき、さらに教材の登録を行うことで他の科目にもその教材を流用することができます。

流用できる教材は、教員自身が作成した教材、または他の教員、TA が作成した教材のうち、作成した教員が流用を許容している教材です。

3. 本学での活用状況

現在、本学での Campusmate／CourseNavig の利用者は下図の通りです。

表1 CourseNavig ログイン状況

* データ対象の期間 2006.4～2006.12

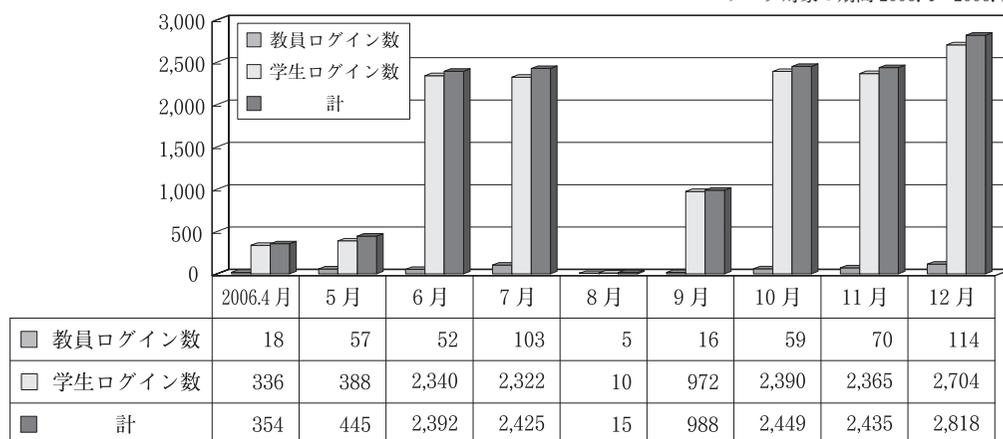
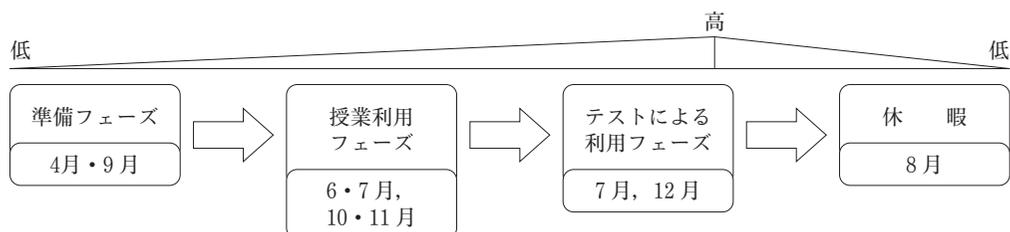


表1のログイン数からみるに、前期授業が始まる4月並びに後期授業が始まる9月には教員のアクセス数が低く、対して前期試験のある7月並びに後期試験のある12月は、他の月の倍程度のアクセス数が確認できます。前期半ばの5月・6月と後期半ばの10月と11月は教員のアクセス数に大きな変動はなく、夏期休暇の8月は極めて利用者が低いことが読み取れます。

以上から、今年度の教員利用状況について以下のように時系列で考察します。

考察1 教員の利用について



* 図上部の「高」「低」はアクセス数を表しています

学生においては、前期の始まる4月、5月にアクセス数が低くありますが、後期の始まる9月、10月は、前期と比較して高い数値が見られます。これは、学生によるCourseNavigシステム利用の認識が高まったためだと推察します。

【課題】

表1から8月におけるアクセス数の減少が確認できます。これは、本学のユーザーがCourseNavigの有する講義に対面したサポート機能を多く用いるためだと考えます。

今後、授業補完システムもさらに有効に活用する啓発を行う一方、InternetNavigware向けコースウェアの利用など多様な学習環境を構築し、本格的なE-learningとしての活用を促進することが一つの課題であると考えます。

表2 CourseNavig 学生利用状況 (学部別)

対象データ：2006年4月～12月

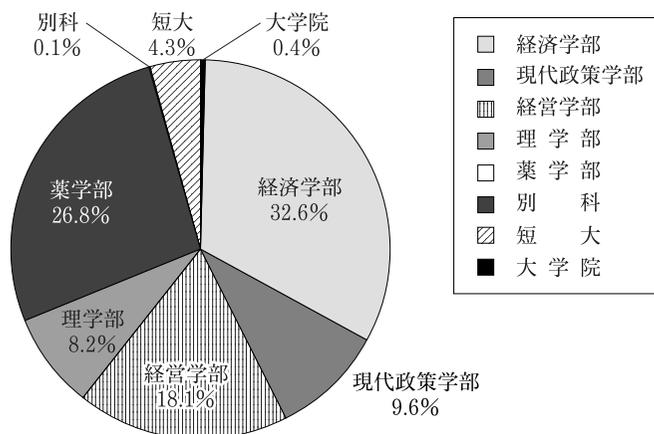


表2は、CourseNavig システムへログインした学生の延べ数を集計した利用状況のグラフです。学部による学生の利用割合は、経済学部が最も多く、次いで薬学部、経営学部となっています。経済学部の学生で最も利用が多かった学科は経済学科で、全学部の29.1%を占めています。同様に薬学部では薬学科が全学部の16.29%を占め、学科によって利用割合が異なります。

表3 CourseNavig 教員利用状況

対象データ：2006年4月～12月

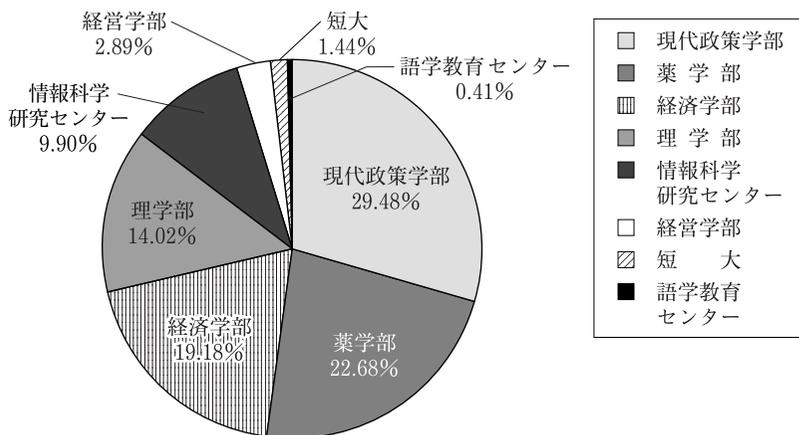


表3は、CourseNavig システムへログインした教員の延べ数を集計した利用状況のグラフです。教員の利用が最も多い学部は、現代政策学部で次いで薬学部、経済学部となっています。全体の三割を占める現代政策学部は、2006年度より新たに開設された学部で教員の平均年齢が比較的低いことから、コンピュータに明るくCourseNavig システムの利用にも積極的だと推察します。

薬学部については、CourseNavig と異なる E-learning システム「ウェブクラス」を導入しており、比較的 E-learning への認識が高いと予想できますが、同じ「ウェブクラス」を導入している経営学部の利用率の低さを鑑みるとさらに切れ込んだデータの解析が必要です。

4. CourseNavig 活用の実例

本項目に CourseNavig の利用を多く行っている先生のコメントを掲載します。

実例1) CourseNavig レポート機能の活用

城西短期大学 専任講師 和田美知子

CourseNavig システムは、ウェブを介したシステムのため異なるキャンパスからも常に同じ環境で提出されたレポートをチェックすることが出来る。同時に、提出されたレポートの印刷や形式に関しても統一性が図れることから、CourseNavig のサポートを利用することは確認や保存が便

利である。

PC 教室でテストを行う際に CourseNavig を利用しており、その場合は提示した課題にそってファイルを作成させ提出させる。これにより設定した時間でのテストが可能になるうえ、各学生から提出させたファイルは一つのフォルダでダウンロードし保管できるため、成績管理の点からも有意義である。

実例 2) CourseNavig 配布資料機能の活用

城西大学 経済学部 教授 浦上博達

授業で使用する資料は、毎回、印刷し、授業中に配布している。これまで欠席した学生や資料を紛失した学生から資料を求められることが多く、煩瑣でまた再印刷のために時間が割かれていた。

CourseNavig に教材資料を登録することで、履修する全学生が資料をダウンロードできる。このためこれまでの印刷・配布などに費やしていた労力や時間が削減され、また学生からの入手していないというクレームにも応えることができるようになった。さらに資料の配布期間を定める機能を使用すれば、いつでも資料が入手できるという安易さを取り除くことで学生の緊張感を高めることもできる。それに付随して、講義で用いた PowerPoint 作成の映像資料を CourseNavig に登録することによって、再度、学生達が授業内容を確認したり講義を追体験するような学習が可能となった。

今後はテスト機能や学習機能をも活用していきたいと考えているが、私の目的とする E-learning 機能がまだ装備されていないため、現在は別の E-learning ソフトを作成してそれを用いている。現在の CourseNavig 機能でも使用方法の組み合わせを工夫することによってさらにさまざまな利用の仕方が可能になると思われる。CourseNavig 自体の能力や機能のアップも望まれるが、それと併用して利用方法についての情報交換や創意工夫の場となる FD の開催を是非とも推奨したい。

5. E-learning CourseNavig の展望

CourseNavig システムには、学習を支援するための進捗管理機能や採点機能、成績管理やコミュニケーションツールといった機能を有しております。しかし、これらの機能を活用するには質の高いコンテンツが求められ、作成にあたっては教員の多大な労力を必要とします。そのため、講義の内容や履修学生の数によっては CourseNavig システムの利用が手間になるケースも考えられます。

一般にシステムの適用には、学習スタイルの改革を求める傾向がありますが、性急で強引な改革は、将来の破綻をも招きかねません。CourseNavig の利用に際して、教材作成の労力と学習の効率性を比較し活用することが必要だと考えます。

本学における利用教員の割合は約 13.5% (=対象期間：2006.4~2006.12) となっており、その

形態は資料配布やレポートがメインです。テストや成績管理機能の使用に関しては、従来通り教員自らで管理したいという認識が強くあり、その点ではシステム利用はあまりなされていません。

しかし一方で CourseNavig の啓発が十分でないという点も否めません。CourseNavig は、教員が自主的に活用する学習支援システムであるため、コンピュータに不慣れな方には、積極的に利用されないのが現状です。

簡易なインターフェースで操作が容易である点を含め、システムへの認識を深めていただくことが喫緊の課題です。今後も引き続き定期的な CourseNavig 講習会を開催し、さらに FD の開催も視野に入れた取り組みが重要だと考えます。

(Received Feb. 16 2007)